

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 1

事業名	道徳教育推進プロジェクト		
担当課・室・班名	指導課 教育課程室	問合せ先(電話番号)	4059

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	○ 千葉県教育振興基本計画で「道徳性を高める実践的人間教育の推進」を計画実現の施策の方向の一つとして掲げ、幼児期から発達の段階に応じた道徳教育を推進する。					
当初予算額(千円)	25年度	30,300	26年度	32,000	27年度	32,200
決算額(千円)	25年度	20,699	26年度	19,906	27年度	
財源内訳	県単(○)	全額国費	県単(○)	全額国費	県単(○)	全額国費

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の「道徳教育懇談会」を実施した。(2回目は「心の教育キャンペーン」実施校の報告会を見学した。) ・高校生用読み物教材の続編「明日への扉Ⅱ」を作成・配付した。 ・「道徳教育の手引き」を増刷し、配付した。 ・平成26年度は、小学校14校、中学校11校、高等学校10校を研究校として指定し実践研究を実施した。 ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。(中学校については「道徳教育パワーアップ研究協議会」と称し、実施した。) ・「心の教育推進キャンペーン」による授業公開の実施と実践資料集を作成・配付した。

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育懇談会」において、今後の道徳教育や発達の段階に応じた授業の在り方などについて協議することができた。 ・高等学校の一層の充実のために、前作の「明日への扉」に続く、高校生用読み物教材を作成・配付した。併せて、指導例・ワークシート等の指導資料を収録したCDを添付し、授業者がすぐに活用できるようにした。 ・平成26年度は、小学校14校、中学校11校、高等学校10校を研究校として、道徳の授業を公開し、実践研究を実施した。映像教材を活用した授業では、視聴した児童からは、「わかりやすい」「表情等から気持ちがわかる」等の感想や、保護者からは、「同じ映像を観ることで、家庭でもコミュニケーションが活発になった」等の報告が寄せられた。 ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。中学校の研修会では、特に道徳の教科化に向けた国の動向等を説明した。また、県で作成した映像教材の活用説明や各校の実践事例報告があった。 ・「心の教育推進キャンペーン」による幼稚園1校、小学校10校、中学校5校、高等学校3校、特別支援学校1校の計20校が公開授業を実施した。また、年間5回の会議を設け、各校の取組の紹介や、発達の段階に応じた授業の在り方について協議を行った。実践資料集「心豊かに」及び「心の啓発ポスター」を作成し、県内幼・小・中・高・特別支援学校に配付した。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・県で作成した道徳教材の積極的な活用 ・道徳の授業の一層の充実のために、道徳教育推進教師を対象とした研修会を開催する。 ・映像教材の作成等、引き続き、発達の段階に応じた、千葉県独自の教材作成を進める。 ・道徳教育実施状況調査を行い、映像教材や読み物教材の活用状況を把握する。 ・道徳の教科化に向けた各校の準備を支援する。
--

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 2

事業名	学校人権教育の推進		
担当課・室・班名	指導課 人権教育室	問合せ先(電話番号)	4066

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	○各学校において、より効果的な人権教育の推進及び啓発を図る。					
当初予算額(千円)	25年度	1,296	26年度	1,018	27年度	1,099
決算額(千円)	25年度	986	26年度	699	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>○学校人権教育研究協議会</p> <p>・全体協議会1回, 地区別協議会6会場, 学校人権教育担当指導主事協議会6回, 高等学校協議会1回 推進校協議会5回</p> <p>○「学校人権教育指導資料第35集」(45,000部)を発行</p> <p>○人権教育研究指定校(県立高等学校1校:船橋法典高等学校)</p> <p>○「学校人権教育の推進に関する実態調査」の実施</p>
--

(2) 事業の成果

<p>○インターネットによる人権侵害等, 喫緊の人権課題について取り上げて協議会を実施するとともに, 実態調査の結果をふまえた研究協議や校種別, 地区別の人権教育上の課題を討議することにより, 具体的に各学校で取り組むべき方策が明確にできた。</p> <p>○学校人権教育上有用な資料や情報の提供, 研修会での指導助言等により, 他人を思いやる気持ちや情報モラルの育成に成果があがった。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>○研究協議会では, 学校における喫緊の人権課題(情報モラルや, 性同一性障害等)を取り上げ, 各学校が人権教育を推進する上で参考となる最新の情報を提供する。また, 児童生徒の人権感覚を高めるため, 参加体験型の研修形態を取り入れ, より実践的な研修内容になるよう努める。</p> <p>○指導資料の活用率を高めるよう, リーフレットという様式を継続するとともに, 内容の工夫・充実を図る。</p>

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 3

事業名	ちばっ子「学力向上」総合プラン		
担当課・室・班名	指導課 学力向上室	問合せ先(電話番号)	4057

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「授業力向上」の視点, 子どもたちの学びの視点, 読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点, 体験学習による意欲向上の視点, 「PDCA」の視点の5つの視点に基づき, 児童・生徒の学力向上を図る事業を総合的に進める。					
当初予算額(千円)	25年度	128,800	26年度	160,790	27年度	156,517
決算額(千円)	25年度	122,954	26年度	116,438	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県』ちばプラン」に基づいて、平成23年度から「ちばっ子『学力向上』総合プラン」を策定し、県下児童・生徒の学力向上を目指している。
 本プランでは、21の事業を事業内容によって、「教師カトップ」チャレンジプラン（「授業力向上」の視点）、「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの学びの視点）、確かな学びの礎（いしずえ）プラン（読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点）、興味ワクワク「体験学習」推進プラン（体験学習による意欲向上の視点）、「学力向上」検証プラン（「PDCA」の視点）の5つのプランに分類・整理し、取組内容の明確化を図っている。

(2)事業の成果

各教科・領域で卓越した指導力のある「魅力ある授業づくりの達人」を活用した研究・研修会をのべ1,000回以上、11月の学力向上月間を中心に「ちば『授業練磨の公開日』」として、公立小・中・高等学校及び特別支援学校での授業公開や、地域に根差した教員研修実施のため「若手教員育成推進員」活用事業など、授業力向上に向けた取組を実施した。
 さらに国語、算数において児童がつまずきやすい学習内容に対応した「学びの突破口ガイドー小学校低学年版一」を作成し小学校に配付し、小学生の学力向上に向けた教材や資料の提供を行った。
 また、中学校では「ちばのやる気学習ガイド」5教科を活用するとともに、このガイドに対応した評価問題のWeb配信を行い、中学生の学力向上に向けた取組を実施した。読書好きな児童・生徒を育成するため、小・中・高等学校向けに「読書指導の実践事例集」を作成し、各学校へ配付するとともに、Web配信した。読書指導の充実を通して、人間性豊かな感性を育む取組を行った。
 「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業では、高校生が近隣の小・中学校へ出向き、学習支援を行ったり、課外活動の援助などを行ったり、学習意欲の向上が図られた。県内165校の小・中学校（千葉市を除く）へ学習サポーターを派遣し、児童生徒の学習支援、家庭学習の充実が図られた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

「ちばっ子『学力向上』総合プラン」については、年度ごとに見直しを行い、学力向上に向けた事業を充実し、それぞれの事業で成果を上げており、全体的に進展が図られている。
 各事業については、PDCAサイクルに基づいて事業担当者による個々の事業評価を実施し、それをもとに学力向上プロジェクトチーム会議により、各視点ごとに内部評価を行う。その内部評価をもとに年度末に「学力向上推進会議」で関係者評価を行い、本年度の事業成果を検証するとともに、次年度以降の事業の改善を図っていく。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 4

事業名	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施		
担当課・室・班名	体育課 学校体育班	問合せ先(電話番号)	4108

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒を対象に、各学校で体育や業間、昼休み等の時間楽しく集団で協力し合いながら、長縄連続跳び、みんなでリレー、連続馬跳び等の運動に取り組み、その記録を競いあい、ランキングをホームページに掲載し運動に対する意欲を高めることで、運動の機会を増やし、体力向上を図る。					
当初予算額(千円)	25年度	20	26年度	20	27年度	20
決算額(千円)	25年度	17	26年度	20	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

参加学校 322校(14校増) 報告回数 18,590回(6,811回減) 県内公立学校の23.3%(1.1%増)の学校が取り組んだ。

(2) 事業の成果

参加報告数は昨年度に比べ減少したが、参加校数は14校増加した。引き続き、運動に対する意欲・機会が持続され、体力向上につながる要因となっていると考える。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

中学校の参加数41校(10.7%)、高等学校の参加数5校(3.8%)と参加校が少ない現状である。今後この事業がさらに生徒にとって魅力のあるものとなるよう種目と内容を見直し、検討していきたいと考える。

4 委員意見

(Blank area for committee comments)

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 5

事業名	千葉県競技力向上推進本部事業		
担当課・室・班名	体育課 競技力向上班	問合せ先(電話番号)	4104

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	計画的な選手の発掘・育成・強化や指導者の養成、スポーツ医・科学の活用などを行うとともに、国体で活躍した選手の能力を活用することや、千葉国体会場地市町等と連携した強化拠点作りなど、国体で培われた土壌を活かしながら、地域スポーツ振興に資する。					
当初予算額(千円)	25年度	200,000	26年度	200,000	27年度	200,000
決算額(千円)	25年度	199,511	26年度	199,901	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<p>1 「長崎国体」において、天皇杯10位、皇后杯6位(6年連続入賞)という成績を収めた。</p> <p>2 千葉国体以降も高い競技力を恒常的に維持するため、優れた能力を持つ選手の発掘や、指導者の養成などを行い、競技団体と連携した強化活動に取り組んだ。</p>

(2)事業の成果

<p>1 競技力向上推進本部による長期的・計画的な事業の推進と関係団体とのスムーズな連携により、選手の育成、指導者の養成、組織の整備などが図られ、本県の競技力は向上している。</p> <p>2 国体やその他の国際大会で活躍した選手や監督等を学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツの好循環を図ることを目的とした国体選手能力活用事業を展開した。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>1 この成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげていくため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、競技力向上に向けた取組や地域と連携したスポーツ振興への取組を推進し、「スポーツ立県ちば」の実現に努めていく必要がある。</p> <p>2 国民体育大会での継続的な入賞や、ジュニア選手の発掘・育成・強化など、競技力の恒常的な維持・発展を引き続き図る。また、国体選手能力活用事業等をさらに活発化し、国体における成果を県内に好循環させる。</p>
--

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 6

事業名	千葉の食文化まるごと体験		
担当課・室・班名	文化財課 学芸振興室	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	調理体験を通して、郷土の食文化の由来や重要性について理解を深める事業を県立関宿城博物館で実施。					
当初予算額(千円)	25年度	391	26年度	278	27年度	278
決算額(千円)	25年度	251	26年度	198	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理製作体験として、「小麦まんじゅうづくり」4回(101名)と「こんにやくづくり」1回(30名) ・魚介類の採集捕獲体験として、「投網漁と川魚料理」1回(16名) ・郷土料理技術保持者育成講習会として、「高菜漬け」4回(参加29名)

(2) 事業の成果

調理体験を通して、郷土の食文化の由来や重要性について、参加者に理解を深めていただくことができた。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

博物館の事業としての体験であり、受け入れも青少年に限っているものではないため、様々な年齢層の体験者を受け入れている。
--

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 7

事業名	千葉フィールドミュージアム事業		
担当課・室・班名	文化財課 学芸振興室	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	山・川・海といったフィールド(現地)を「博物館」ととらえ、学びの舞台とするもので、中央博物館本館(山)、中央博物館大利根分館(川)、中央博物館分館海の博物館(海)、関宿城博物館(川)で実施する。					
当初予算額(千円)	25年度	6,490	26年度	6,378	27年度	6,128
決算額(千円)	25年度	6,379	26年度	5,240	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・山のフィールドミュージアムとして「教室博物館」毎週1回実施、「観察会等」19回<中止1回参加467名> ・川のフィールドミュージアム(大利根分館)として「いきもの調査隊」3回<参加0名>、「いしぶみ調査隊」3回<参加1名> ・川のフィールドミュージアム(関宿城博物館)として「関宿城下を歩こう」5回<参加97名>、「川の歴史散歩」1回<参加19名> ・海のフィールドミュージアムとして、「観察会等」93回<参加1,150名>、「野外実習授業」10回<参加686名>
--

(2) 事業の成果

<p>参加者に、実際に現地を観、体験していただくことにより、千葉県が多様な自然と歴史を実感していただくことができた。</p>
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>山あるいは海のフィールドミュージアムについては、小学生親子などの参加者も多く、基本方策のうち、「多様な活動機会の確保」という目的は達せられているものと思われる。ただし、安全確保のため1回あたりの参加者数を絞らざるを得ず、多くの方々に対して活動機会を確保することは困難である。</p> <p>また、川のフィールドミュージアムについては、通常の博物館の利用者同様、幅広い参加者が含まれている。</p>

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 8

事業名	放課後子供教室推進事業の子供の居場所づくり		
担当課・室・班名	生涯学習課 学校・家庭・地域連携室	問合せ先(電話番号)	4167

1 事業の概要

柱	I 子供・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	すべての子供を対象として、安全・安心な子供の活動拠点(居場所)を設け、地域住民の参画を得て、子供たちの勉強やスポーツ、文化活動等の取組を推進します。					
当初予算額(千円)	25年度	61,900	26年度	73,070	27年度	100,235
決算額(千円)	25年度	59,514	26年度	66,739	27年度	
財源内訳	県単(○)	県費:29,765	県単(○)	県費:32,998	県単(○)	県費:50,101
		国補助金:29,749		国補助金:33,741		国補助金:50,134

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

- ・実施市町は、27市町・173校(148教室)である。
- ・指導スタッフ等研修会(1回開催 112人参加)を実施した。
- ・学校支援コーディネーター研修講座(年3期開催 総計434人参加)を実施した。
- ・学校支援ボランティアだよりを作成し、配布した。

(2)事業の成果

- ・指導スタッフ等研修会では、「他市や他の教室の取組がわかって勉強になった。」「講師の経験からの話は大変ためになった。」などの感想が多く、講演会の内容や分科会討議が参加者の今後の活動に有効であった。
- ・学校支援コーディネーター研修講座は、3期にわけて実施し、1期は知識、技能の向上を、2期は事業の参観を、3期は実践発表、意見交換を行った。各期とも参加者の評価は高く、「実践に生かされる」との声が多かった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・放課後子供教室は着実に実施対象校数(20校増)、実施市町村数(2町増)が増加し、子供たちの安全・安心な居場所づくりが進んでいる一方で、予算確保が難しい状況である。
- ・人材不足が課題である。今後も研修会等を通して、指導者の資質向上、人材発掘やネットワークづくりが必要である。
- ・今後は、放課後児童クラブとの一体型の放課後子供教室増設に向け、情報や課題を収集し、関係者へ提供していくこと等、普及啓発を推進していくことが必要である。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 9

事業名	週末ふれあい推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室 社会教育施設班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	青少年教育施設の立地条件や機能を生かし、高齢者・親・子のふれあい体験事業を実施し、今日地域社会で欠けている異年齢集団との交流の充実を図り、人と協調する態度や、思いやりの気持ちを育むとともに、併せて地域の指導者を養成する。					
当初予算額(千円)	25年度	2,900	26年度	2,900	27年度	2,900
決算額(千円)	25年度	2,900	26年度	2,900	27年度	
財源内訳	県単(○)	施設管理運営費内で実施(@580千円×5)		県単(○)	施設管理運営費内で実施(@580千円×5)	
	○	○		○	○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

平成26年度の実施状況
(ア) 実施施設(5施設) 手賀の丘少年自然の家、水郷小見川少年自然の家、君津亀山少年自然の家、東金青年の家、鴨川青年の家
(イ) 実績 5施設で68事業を実施 14,653人参加(前年比 2,176人増)
(ウ) 主な実施プログラム ・自然観察: あいたいね! ホタルくん・セミくんに、森っこレンジャー ・星座観察: スターウォッチング、みんなおいでよ! プラネタリウム ・交流活動: 青年の家まつり、少年自然の家まつり ・ものづくり体験: 味噌作り、ミニ門松作り、そば打ち体験 ・その他: やさしいカヌー、親子でカッター&シーカヤック

(2) 事業の成果

各施設で特色ある事業を計画したため、参加者は増加した。また、参加者から次のような声が聞かれ、事業の目的を達成することができた。 ・自然体験を通じて、親子や兄弟姉妹が互いにコミュニケーションを深めた。 ・活動を通じて参加者同士の交流が深まった。 ・地域の指導者やボランティアの協力を得て実施したことで、地域とのかかわりを持つことができた。 ・各施設とも特色を生かしたプログラムの工夫を行い、内容の充実を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・各施設とも実施事業の評価をもとに、時代のニーズや課題に対応した事業の展開に努めているところである。 ・地域との連携を深め、高齢者をはじめとした地域人材の有効活用を図るとともに、地域指導者育成等、地域への貢献をより深める。 ・事業の広報について見直し、学校だけでなく地域への案内を工夫し行うことで、親世代や地域の指導者層の参加を増やし、県内における体験活動の推進につなげる。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 10

事業名	青少年教育施設の運営		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	少年自然の家、青年の家において自然体験や生活体験などの多様な体験活動の機会を提供し、団体生活を通じて青少年の育成を図ります。					
当初予算額(千円)	25年度	447,025	26年度	472,715	27年度	468,084
決算額(千円)	25年度	460,081	26年度	473,462	27年度	
財源内訳	県単(○)	青少年教育施設管	県単(○)	青少年教育施設管	県単(○)	青少年教育施設管
	○	理費	○	理費	○	理費

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

平成20年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	256,917人	団体数合計	2,728団体
平成21年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	271,333人	団体数合計	2,900団体
平成22年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	276,545人	団体数合計	2,873団体
平成23年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	312,759人	団体数合計	2,682団体
平成24年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	272,009人	団体数合計	3,405団体
平成25年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	267,950人	団体数合計	3,554団体
平成26年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	296,500人	団体数合計	3,759団体

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度から県立青少年教育施設全て(5施設)に指定管理制度を導入し、運営経費を削減しながら、民間のノウハウを生かした主催事業やプログラムの情報提供を行っている。 5所相互の交流や施設職員研修等を通して、施設相互の情報交換が図られている。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 利用団体数は微増しているものの、少子化の影響とみられる利用団体個々の構成員減少により、利用者数が伸び悩んでいることから、新規団体の確保につながる新規プログラムの作成や広報の拡大などの策を講じている。 また、学校等への出前講座や指導者養成事業の実施により、指導者に対する青少年教育施設のプログラムや利用の仕方等について、周知を図り、長期的な利用者増につなげる。 各施設に対し、職員の外部研修会への積極的な派遣や資格取得等、指導等のスキルアップを働きかけることにより、青少年教育施設としてのクオリティをより向上させ、利用者サービスの向上を図る。
--

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 11

事業名	子どもの読書活動推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室 社会教育班	問合せ先(電話番号)	4072

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	平成22年3月に策定された「千葉県子どもの読書活動推進計画(第二次)」に基づき、乳幼児期からの読書活動を推進し、子どもが自主的に読書に親しむことができる環境の整備を進めるため、発達段階に応じた保護者向けリーフレットの作成・配付及び研修会・講座等を実施する。					
当初予算額(千円)	25年度	1,000	26年度	966(内、県立中央図書館80)	27年度	969(内、県立中央図書館80)
決算額(千円)	25年度	704	26年度	855(内、県立中央図書館80)	27年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・子どもの読書活動啓発リーフレット「子どもに読ませたい本100選」の乳幼児向け及び小学生向けをそれぞれ3歳児及び小学校1年生の保護者に配布(乳幼児向け50,000部、小学生向け55,000部)
- ・千葉県子どもの読書活動啓発の集い 5月17日 千葉県文化会館で開催 講演、事例発表 参加者198名
- ・公立図書館と学校の連携を図るための研修会 8月19日 千葉県立千葉女子高等学校で開催 実践発表、講演、交流会 参加者108名
- ・子どもの本の読み聞かせ講座(今年度より県立中央図書館主催事業にて実施)

(2) 事業の成果

- ・「千葉県子どもの読書活動推進計画(第三次)」策定に向け、作業部会を設け準備にあたり、平成27年3月に策定が完了した。
- ・読書活動啓発の集いでは、学校や家庭・地域での読書活動の意義や重要性について、理解と関心を深める機会とすることができた。
- ・発達段階に応じた保護者向けの推薦図書の紹介リーフレットを作成し配布した。配布対象の保護者には、ブックリストとして活用されるなど家庭における子どもの読書活動の意義の啓発が図れた。
- ・公立図書館と学校の連携を図るための研修会では、図書館と学校の実践発表及び交流会を行い、参加者に効果的な連携の在り方について具体的な取り組みを周知することができ、連携の必要性を認識させることができた。
- ・県立中央図書館においては、子どもの本の読み聞かせ講座を開催し、読み聞かせボランティア等を対象に、読み方などの技量向上など、人材の育成を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・「千葉県子どもの読書活動推進計画(第三次)」の趣旨を周知し、全県を挙げて子ども読書活動の推進を図るために概要版を作成し、市町村や教育関係機関に配布していく。読書を通じて地域の子どもの育成を図るために、市町村における「子どもの読書活動推進計画」は必要不可欠である。県内の策定率は市が70.3%、町村が17.6%と現状は策定が遅れており、促進を支援していく必要がある。推進計画未策定の市町村に対しては、県の第三次計画策定に合わせ、この周知とともに、市町村に情報等を提供し、策定の支援をしていく。また、ブックスタート事業未実施の市町村には、実施へ向けての支援を行っていき、全市町村での実施が望まれる。
- ・保護者に子どもの読書活動の意義と重要性を啓発するため、推薦図書の紹介のリーフレットを配布し、また「子ども読書の集い」の内容を工夫するなどして子どもの読書活動の啓発をより一層行っていく。
- ・本が好きな子どもの育成のために、県立図書館において、子どもの読書活動に関する読み聞かせボランティアの養成講座を開催する。読み聞かせの効果や必要性について理解を深めてもらい、絵本の選び方や読み方を学び、人材育成を図っていく。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 12

事業名	通学合宿推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室 社会教育施設班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	異年齢の子どもたちが、地域の施設で一定期間寝食を共にしながら学校へ通うなかで、食事の準備や身支度等の日常生活の基本に関する事を、子どもたち自身で行うことで、現在の子どもたちに不足している生活体験や、交流体験を行うことができる通学合宿を県内各地域で実施されるように推進する。					
当初予算額(千円)	25年度	—	26年度	—	27年度	—
決算額(千円)	25年度	—	26年度	—	27年度	—
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

平成26年度の実施状況
 ・市町村: 20市町村36事業(前年比3市町増)
 ・県立青少年教育施設: 4所11事業(内3事業は市町村と共催)
 事業総計: 44事業(参加児童生徒数 1,011人)

(2) 事業の成果

- 参加者や保護者、指導者から次のような声が聞かれ、事業の目的を達成することができた。
 - ・非日常的な体験を同じ学校や地域等、日常に近い環境で行うため、生活力が向上した。
 - ・子どもと年齢の近い高校生や大学生、親や教師以外の大人等との異世代交流が図られた。
 - ・保護者が親子の絆や子育てについて考えるきっかけになった。
 - ・子どもたちへの支援をとおして、高校生や大学生が人間的に成長できた。
 - ・地域で子どもたちを育てようとする意識が向上した。
- 事業の効果が認められて、全体としては1事業の増加となった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・事業効果は認められているものの、地域における実態として宿泊施設がなかったり、運営に携わる事業スタッフが確保できないなどの課題が挙げられる。そこで、防災キャンプでの実践例として体育館の利用や、地域住民をボランティアとして活用する例など、先行事例を幅広く紹介していきたい。
- ・公共の施設だけでなく、高校の合宿所を利用した事例など、特徴的な実践とともに過去の実施事例を県ホームページに掲載して情報提供することで、広く事業の普及に努める。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 13

事業名	「ちば・ふるさとの学び」活用推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課 教育立県推進室	問合せ先(電話番号)	4176

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	・学校等が、より活用しやすいテキストとなるよう、適宜、統計資料の時点修正を行う。					
当初予算額(千円)	25年度	—	26年度	—	27年度	—
決算額(千円)	25年度	—	26年度	—	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

- ・教員研修等でウェブページの周知を図った。
- ・一部統計資料の時点修正をし、学校等が活用しやすくなるよう努めた。

(2)事業の成果

- ・「ちば・ふるさとの学び」の周知や活用の促進を図ることができた。
- ※参考 テキストへのアクセス総数は、平成24年度は58,368件、平成25年度は77,952件、平成26年度は105,843件となっている。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・適宜、テキストの統計資料等を時点修正する。
- ・テキストのデータが、学校等でより活用しやすくなるようウェブページの更新をする。
- ・「ちば・ふるさとの学び」の改訂に向けた準備を行う。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 14

事業名	学童期からの生活習慣病予防事業		
担当課・室・班名	健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班	問合せ先(電話番号)	2667

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	子どもの頃からの適切な食習慣づくりを推進するほか、ライフステージに応じた適切な食生活等について普及啓発を行うことにより、生活習慣病を予防し、生涯を通じた健康づくりを図る。					
当初予算額(千円)	25年度	1,053	26年度	500	27年度	500
決算額(千円)	25年度	1,022	26年度	494	27年度	
財源内訳	県単(〇)	1/2国庫	県単(〇)	1/2国庫	県単(〇)	1/2国庫

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>①企業等と連携して実施した「カンタン!!野菜たっぷり!!ヘルシー料理コンテスト」の入賞作品レシピをボランティア団体や県内飲食店等へ配付し、野菜摂取量の増加とよりよい生活習慣の実践に向けて情報発信を行った。(配付数計52,000部)</p> <p>②がん予防展等で「しっかり運動、早ね早おき朝ごはん」に関する普及啓発を行った。(計4回)</p>
--

(2) 事業の成果

<p>平成22年県民健康・栄養調査の結果では、千葉県の野菜摂取量は全国平均を下回っていた。「カンタン!!野菜たっぷり!!ヘルシー料理コンテスト」の入賞作品レシピの発信や「しっかり運動、早ね早おき朝ごはん～野菜を350g測ってみよう～」のイベント等を通じて野菜を摂取することの重要性を普及啓発したことにより、野菜摂取量の増加と適切な生活習慣の実践を働きかけることができた。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>ライフステージに応じた適切な食生活及び生活習慣の実践を図るため、関係機関における連携と食育活動の充実を支援する。企業、協会けんぽ、大学等と連携したイベント等を通じて、野菜摂取量の増加やよりよい生活習慣の実践に向けた普及啓発及び食環境整備を推進する。</p>

4 委員意見

--

事業名	ちば食育活動促進事業		
担当課・室・班名	安全農業推進課 食の安心推進室	問合せ先(電話番号)	3092

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援						
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保						
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保						
事業内容	県民が一人ひとりが自ら食育を実践することを目指した第2次千葉県食育推進計画を策定するとともに、市町村、関係団体、企業、ボランティア等と連携・協働した食育推進運動の展開を図る。						
当初予算額(千円)	25年度	5,811	26年度	5,271	27年度	4,813	
決算額(千円)	25年度	2,438	26年度	2,156	27年度		
財源内訳	県単(○)	一般財源	4,551	県単(○)	一般財源	4,181	
		国庫	1,260		国庫	1,090	
					県単(○)	一般財源	3,988
					国庫	825	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ○ 県食育推進県民協議会の開催(1回) ○ 地域食育推進会議の開催(県内10地域10回) ○ 食育ボランティア・サポート企業情報交換会の開催(1回) ○ 地域食育活動交換会の開催(県内10地域10回) ○ 食育応援企業連絡会の開催(1回) ○ 学校参加型食育体験プログラムの配布(小・中学校、高等学校などへ1,800枚配布) ○ 食育体験プラン事業の実施(2地域) ○ 食育月間(6月・11月)における広報・啓発 ○ 食育啓発リーフレットの作成・配布(6万部)
--

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ○ 県食育推進県民協議会及び地域食育推進会議において食育関係者間の意見交換を行い、食に関する現状及び今後の取組について情報の共有化を図るとともに、より一層の連携促進を図りました。 ○ 食育ボランティア・サポート企業情報交換会を開催し、「連携」をテーマに優良事例発表・パネルディスカッションを開催した結果、270名の参加があり、活発な情報交換を行うことができた。アンケートでは、次への活動のヒントが得られたとの声が多く聞かれました。 ○ ちば食育サポート企業が学校で出前授業などを行う学校参加型食育体験プログラムを実施するなど、企業と連携した取組を推進しました。 ○ 大学生が収穫や流通・加工等について産地で体験し、食育への理解を深めるとともに、生産者とのワークショップを通じて地域活性化の方策を検討する食育体験プログラムを2地域で実施したところ、43名の参加がありました。アンケートでは、将来栄養士としてこの経験を役立てたい、友達や家族に千葉の食の美味しさを伝えたい、などの声が多聞かれました。 ○ 6月と11月の食育月間には、市町村、関係団体、企業等と連携し、県内各地で行われる食育イベントを通じて、県民への普及・啓発を強化しました。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>食育について県民への周知は図られてきているところですが、それを行動・実践に結びつけていくことが課題となっています。</p> <p>平成25年1月に策定した「第2次千葉県食育推進計画(キャッチフレーズ:ちばの恵みで まんてん笑顔)」に基づき、ちば食育ボランティアやちば食育サポート企業をはじめ、官民が連携した取組を進め、県民の皆さんが食育について「知っている」から「できる」そして「している」にステップアップしていけるよう一人ひとりが実践する幅広い県民運動として展開していきます。</p>
--

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 16

事業名	いきいきちばっ子食育推進事業		
担当課・室・班名	学校安全保健課 給食班	問合せ先(電話番号)	4095

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「ちばの食」を通じて子どもたちの健やかな体を育むとともに、規則正しい生活習慣を身につけさせるため、食育ノートの活用や体験型の食育活動を行うなど、学校における食育を推進する。					
当初予算額(千円)	25年度	2,530	26年度	2,220	27年度	2,220
決算額(千円)	25年度	1,609	26年度	764	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・県内5地区において、公立小中学校の管理職・給食主任・栄養教諭等及び共同調理場長・行政担当者等を参加対象者とした地区別研究協議会を開催し、各地区における食に関する指導の実践発表等を行った。
 ・各教育事務所ごとに栄養教諭を中心とした4名の食育指導推進委員を委嘱し、その所属校を食育指導推進拠点校に指定し、26年度は各地区2校(計10校)が授業公開等を通して食育指導の充実を図った。
 ・県立大網高等学校及び県立君津青葉高等学校を活動支援校に指定し、近隣の小中学校と連携した食育活動を実践した。

(2) 事業の成果

・各地区の栄養教諭等が中心となって食に関する指導の研究協議会を運営することで、地域の実情に即した実践発表を行うことができた。
 ・農業系高等学校の圃場や施設の利用及び職員の支援を受け、体験活動を取り入れた食育活動を行うことで、児童生徒の食に関する意識を高めることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・今後、より保護者や地域との連携を意識した施策を展開することで、一層の食育指導の浸透を図る。
 ・地域や各学校の実態に応じた食育指導の推進ができるように、地域における食育指導推進事業及び高等学校と連携した食育活動支援事業の更なる充実を図る。
 ・調理員を対象とした研修会を充実することで、食育推進の重要性を啓発し、学校給食を活用した食に関する指導の充実を図る。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 17

事業名	豊かな人間関係づくり推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課 教育立県推進室 推進班	問合せ先(電話番号)	4176
	指導課 教育課程室	問合せ先(電話番号)	4059

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒に、思いやりの心を育て、コミュニケーション能力の育成を目指した「豊かな人間関係づくり実践プログラム」が県内小・中学校において、積極的に展開されるよう、活用推進に努める。					
当初予算額(千円)	25年度	—	26年度	—	27年度	—
決算額(千円)	25年度	—	26年度	—	27年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修や希望研修でプログラムを活用した授業実践についての講座を実施し、教員の授業力向上に取り組んだ。 ・改訂した実践プログラムの更なる効果的な活用を推進するため、県内5地域から小・中学校10校をモニター校として指定し、実践報告を取りまとめた。 ・前年度の実施状況調査結果を各市町村教育委員会に報告するとともに、学校訪問で活用について指導・助言を行った。

(2)事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の初任教員や教員経験2年目及び3年目の教員を対象としたプログラムの活用方法等についての研修を実施することにより、若手教員の授業力の向上及びプログラムの周知を図ることができた。 ・初任者研修や希望研修におけるプログラムの活用法についての講座実施により、教職員にプログラムの活用について意識づけができた。平成26年度の実施状況調査では、小学校90%(前年比4.1%増)、中学校79.1%(前年比9.8%)と実施率が上がった。 ・モニター校からの実践報告を整理することにより、プログラム活用の効果や更なる工夫点を把握することができた。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの学校でプログラムを活用した授業実践が推進されるよう、今後も若手教員の授業力アップのための取組を継続していく必要がある。 ・プログラムの更なる活用推進に向けて、平成27年度は、初任者研修、教職員2・3年目の教員を対象とした「授業力アップ研修」を実施する。また、昨年に引き続き平成27年度も、県内の小学校5校、中学校5校をモニター校に指定し、改定版プログラムの効果的な活用方法や、次期改訂を見据えた課題整理を進めていく。 ・プログラムの更なる活用推進に向けて、実施状況調査により学校の問題点を把握し、学校訪問等での活用推進の指導・助言に役立てていく。

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン 平成26年度事業評価シート

計画番号 18

事業名	男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催		
担当課・室・班名	男女共同参画課 企画調整班	問合せ先(電話番号)	2372

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	男女共同参画センターにおいて、男女共同参画への理解を深めるため、県民を対象に各種講座等を開催する。					
当初予算額(千円)	25年度	1,085	26年度	1,036	27年度	1,034
決算額(千円)	25年度	1,005	26年度	739	27年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 「男女共同参画シンポジウム」
- 自己開発・人材育成セミナー(2講座)「女性リーダー養成講座」「ミーティング上手になるコミュニケーション講座」
- 専門講座(2講座)「社会福祉協議会との共催セミナー」「千葉大学との共催セミナー」

(2) 事業の成果

女性だけでなく、男性、若年層にも参加しやすい講座を開設し、あらゆる人にとっての男女共同参画を意識した意識啓発をすることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

他の事業との差別化を図るため、より専門的な講座を開設した。また、講演テーマを工夫することで、男性、若年層の参加が増すなど、定員を上回る参加者を集める講座があった。しかし、まだ、男性の参加者が少ないので、テーマ、開催日等を工夫し参加者を増やしていく努力が必要である。

4 委員意見